



愛隣幼稚園..... 園だより 12.11月号

「お母さん」時々「私」

子どもたちがバス遠足に出かけた日。お家の人たちは主が不在となった幼稚園の園庭で《運動会》をしました。私は子どもたちと泉自然公園にいましたから、もちろん当日の様子は見ることはできませんでした。噂によると大変な盛り上がりだったとか……。確かにその週の火曜日から、その盛り上がりは十分予想されました。いつもなら降園時間5分前の優子先生の報告の時間になっても、なかなか集まらないお母さんたち。ところがその火曜日は、運動会の事前練習をするとのことで1時半園庭集合の呼びかけに、時間前から集まり始めるお母さんたちの姿がありました。何だかうきうきして、そして若干の本気モードです。青白に分かれて、長縄跳びの練習が始まりました。なんだなんだこの雰囲気は！キャーとかワッとか言いながら、跳んでる跳んでる、小学生か中学生みたいに。あ～ぁなにも子ども抱いたまま跳ぶことはないでしょ。危ない！「い～ち、に～い、さ～ん・・・」数まで数える。本気だ。列の作り方、縄の回し方も真剣に検討しています。その後はジェンカにマイムマイム、懐かしのフォークダンス。誰が憶えてるんだそんなもん…と思っていたら、ある年代から上の人々は当り前のように踊っていました。手を繋いで楽しそうな顔・顔・顔。「お母さんじゃない!!!」私は、可笑しくて楽しくて嬉しくて、カメラを構えながら笑ってしまいました。どの顔も「いつものお母さん」じゃない、でもその人自身で、私が私を楽しんでいるとでもいうような、誰もがステキな笑顔でした。ほんの数十分のいつもと違う時間の中で、いつもと違うことの幸せをみんなが感じていたように思いました。最近読んだ本の中にこんなことが書いてありました。

“人間には誰でも「役割」がある。「父親」「母親」というのも役割のひとつ。そして誰でも複数の役割を持っている。もし役割がひとつしかなかったらそれはとても苦痛なことである。役割が一つしかない、その役割から逃れたいくなる。いくつか複数の「役割」があるからこそそれぞれの「役割」を楽しめる。24時間お母さんしかできないのはつらい。…ウィリアム・フォークナーという作家は「人間が同じことを8時間続けられるのは労働だけである」という言葉を残している。人間がひとつの「役割」を続ける時間的な限界は実に短い…”(子育てをしない男には女のスゴさがわからない/山脇由貴子)

そう、その通り！です。会社員も、幼稚園の先生も、お母さんも、お父さんも、楽しんでその「役割」をできる時間は本当に短いのです。ひょっとするとそれは子どもたちがあそびの中で様々な役になって、様々な自分を楽しむのと、どこかで繋がっているような気がします。海猿になったり、カウボーイになったり、お母さんになったり、虫捕り名人になったり、幼稚園の子になったり、お家の子になったり。ずっといい子ではいられなくて、はちゃめちゃをやってみたり。そうそう、時々現れる1年生は、何故か幼稚園時代にやっていた「こうもり」になって幼稚園にやってきましたりしています。そして私たちは自分が持っている幾つかの「役割」の中に、その時のメインの「役割」があり、それがどれであるかということをご各自覚しています。メインの私を演じる時、私たちはかなり真面目に一生懸命その役になりきろうと、頑張ります。その「役割」をどう演じるかで死活問題になったりすることもあるからです。責任つてももの重かったりします。その役を代わってくれる人がいないこともあります。だから8時間を超えてもその役を演じ続けたりするのです。「会社員」を演じた人が家に帰って来て「お父さん」「夫」になります。同じく朝からずーっと「お母さん」の私は場の転換もないまま、さあ、どうしたらいいのでしょうか？しかもそれが連日になったら、いつか大爆発です。だからあの日の園庭ではしゃいでいた「私」の役に、1日のどこかでほんの少しでもなりきることができたら、そんなピンチも乗り越えていけそうな気がします。私たちが幾つかの「役割」をもっていることは、心と体を健康に保つためには不可欠なのだと思います。大人も8時間が限界です。子どもは尚更です。1日8時間以上、幼稚園や保育園の子どもを演じることは苦痛なのです。